

平成26年度  
事業報告書  
(一部抜粋)

社会福祉法人 七日会

# 平成 26 年度 社会福祉法人 七日会 事業報告

## 1. 社会福祉法人七日会の基本理念・経営理念

- ・ 地域との交流  
地域交流の推進を図り、安心と信頼で結ばれる地域福祉の実現に努める。
- ・ 信頼を得る運営及び経営  
法令を遵守し、また透明性を高め、信頼を得ることができる運営及び経営に努める。
- ・ サービスの質の向上  
業務の標準化と職員のスキルアップを図り、人権の尊重と利用者本位のサービスの実現に努める。
- ・ 責任と権限の明確化  
組織体制を整備し、職員各々の組織上の役割、権限、責任を明確にして、組織一体となって業務遂行にあたる。
- ・ 職場環境の整備  
誇り、やりがいをもって働ける、働きやすい職場環境づくりに努める。

## 2. 平成 26 年度の事業報告概要

平成 8 年 3 月に七日会が設立してから、19 年が経過しました。

現在、当法人が運営する高齢者福祉施設・事業所の拠点は、東京都において、青梅市、東村山市、小平市、西多摩郡瑞穂町、世田谷区、武蔵村山市の 1 区 4 市 1 町にわたり、あわせて宮城県仙台市において事業運営を行っています。

また、事業の運営状況としては、特養 5 施設、短期入所生活介護 5 事業、通所介護（認知症対応型含む）5 事業、居宅介護支援事業所 2 箇所といったように、高齢者福祉施設及び在宅サービスを数多く運営しています。

当法人としては、この事業運営にあたって、基本理念・経営理念に基づき、(1) 適正かつ健全な運営・経営を行うこと、(2) 地域に根付いた施設・事業所となること、(3) 入居者等に安心と笑顔をもたらすこと、この 3 点を平成 26 年度の事業運営の目標として取り組みました。

### (1) 適正かつ健全な運営・経営を行うこと

適正かつ健全な運営・経営を行うことが、入居者等にとっても、職員にとっても重要であると考えます。当法人内の各施設・事業所における各事業が、それぞれの地域の特性に合わせ、また法令を遵守し、各規程・規則等に沿って運営体制を確立し、また権利擁護・自立支援等の観点から職員教育を図り、適正かつ健全な運営を行いました。

経営面では、適正な事務手続き、会計処理を行うとともに、稼働率の高位安定に伴う収入確保と無駄な経費の削減に努め、収益を上げ、適正かつ健全な経営状況となるよう取り組みました。

しかし、平成 26 年度、一部の事業において、稼働率が目標の水準に達せず、あわせて平成 26 年度より賞与引当金を計上したことが影響し人件費率が高い水準にあり、目標とした収益を達成できないという状況がありました。よって次年度は、この改善に取り組んで参ります。

### (2) 地域に根付いた施設・事業所となること

地域に根付いた施設・事業所として、それぞれの地域における様々な福祉ニーズに応えることが重要であると考えます。平成 26 年度も例年同様に、法人設立から 19 年間という年月において積み重ねた経験のもと、また新たな情勢に適応できる運営体制のもと、様々な福祉ニーズを掘り起こし、その福祉ニーズに応えるよう役割を果たしました。地域住民を招待する行事等についても例年通り開催し、地域住民との交流を図りました。

### (3) 入居者等に安心と笑顔をもたらすこと

当法人内の施設・事業所を利用する高齢者等が、安心して、笑顔多く生活していただきたいと考えています。

上記を踏まえ、平成 26 年度、職員を育成し、サービス及び接遇等の質の向上を図り、あわせて入居者等

が要望する活動を多く実施しました。また、生活を大きく変化させてしまう転倒等の事故を予防する対策に努めて参りました。しかし、平成 26 年度一部事業における事故件数は増加傾向にあり、次年度はその改善に取り組んで参ります。

### 3. 平成 26 年度の法人における主だった取組み

#### (1) 理事会の開催

以下の通り、理事会を年 4 回開催し、法人内の運営・経営に関する内容、施設整備に関する内容等を審議しました。

(理事会開催状況)

- H26.5.23 平成 25 年度事業報告・決算、杉並区宮前の区有地活用による特養施設建設・運営法人の公募。
- H26.12.22 平成 26 年度第 1 次補正予算、賞与引当金の計上について、(仮称) 千川の杜 初度備品入札 公表内容及び選定基準。
- H27.2.6 千川の杜 初度備品購入業者の入札結果、千川の杜 運営規程・契約書 (契約書別紙、重要事項説明書含む)・その他運営に関する各種規程・規則、千川の杜 開設に伴う定款変更、施設長任命、千川の杜 給食委託業者選定。
- H27.3.27 平成 26 年度第 2 次補正予算、平成 27 年度事業計画・当初予算、平成 27 年度介護報酬改定に伴う利用者負担金の変更に関する各種書類の改定、評議員会の設置と評議員予定者の選任、給与規程・介護休業等に関する規則等の改定。

#### (2) 監事監査の実施

H26.5.19、当法人の監事により、理事会の開催状況・審議内容・理事の参加状況に関し、また法人本部、各施設・事業所における運営、経営状況等に関する監査を実施しました。

※結果については、監事監査報告書を参照して下さい。

#### (3) 外部監査の実施

H26.5.19、外部の税理士により、法人本部と各施設・事業所の財務状況について監査を実施しました。

※結果については、外部監査の報告書を参照して下さい。

#### (4) 法人会議の実施

毎月第 1 水曜日に、当法人内の各施設の施設長が集まり、運営経営状況等について報告を行いました。また、その他法人全体の検討事項について話し合い、必要によって随時改善について講じました。

#### (5) 施設整備計画

平成 24 年 10 月に豊島区より公募の事業決定を受け、その後東京都へ施設整備計画の申請を行い、平成 25 年 8 月に内示を受けました。平成 26 年 1 月に工事が着工となり、平成 27 年 2 月に千川の杜が竣工となりました。平成 27 年 4 月より、千川の杜が開設となり、入居者等の笑顔、快適な生活のため、地域に根づいた施設となるよう努めて参ります。

当法人において、定期的に施設整備を行うことは、その地域社会に貢献できることだと考え、また、重要な使命だと認識し、今後も継続的に計画を進めていく考えであります。

#### (6) 法人内の規程、規則の見直し

法人内の規程や規則を必要に応じ随時見直しました。

#### (7) 経営努力

平成 26 年度の消費税増税に伴い、各施設・事業所において、稼働率の更なるアップを図り、収入確保に努め、また経費節減に努めることにより、安定的な経営ができたと考えております。

#### (8) その他

- ・地域住民を招待するバーベキュー大会、敬老会を開催し、地域住民との交流を図りました。
- ・新年会を開催し、日頃お世話になっている方々との親睦を図りました。
- ・東日本大震災を踏まえ、災害対策を見直し、万一の災害時に備えております。

## 平成26年度を顧みて

施設長 森谷 修三

今年度は、社会保障費の財源確保に伴い消費税率が8%に引き上げられ、これまで以上に厳正な経営管理が求められるようになった。この一年間、杜の園では、前年度の稼働率を上回る運営と適正な予算管理を行い、その結果、サービスの質に影響を与えることなく安定した経営へと繋げた。

一方、サービス面では、杜の園の年度目標に掲げている「利用者様ひとり一人の意思と尊厳を尊重し、その人らしい生活を基盤として人生の統合へ向かうよう活動する」ために、職員の力量を評価した上で、個々の能力に合った内部研修を実施し、入居者様の意向を尊重しながらその人らしい生活支援を行ってきた。

それにより第三者評価機関からは過年度よりもサービスの質が向上しているとの評価を得ることができた。この評価結果については、多職種間の協働体制はもとより、入居者様とご家族なくしては得ることはできず、今回の結果に満足することなく、更なる向上を目指していくこととする。そのためには、サービスが適正に提供されているかどうか問題意識をもち、原因を追及・分析する能力とその結果からサービス改善へと繋げていく職員個々の実行能力が必要である。

平成27年度の介護報酬改定に伴う介護老人福祉施設の機能としては、中重度の方を対象に受け入れる施設として位置づけられ、看取り介護の体制強化も合わせた役割が求められている。このことから特に看護職と介護職は、これまで以上に相互の専門性を理解し協働しながら、入居者様とご家族の意向を尊重したさらなるケアの提供が求められ、重要課題として取り組んでいく必要がある。介護職の職能向上については、介護報酬改定の施策にも盛り込まれており、質の高い介護サービスが提供できるよう引き続き職員の資質向上を目指した研修を実施していくこととする。

終わりに、今後の超高齢化社会における介護ニーズが増大していくなかで、その時々求められるサービスが柔軟に提供できる体制を整備するとともに、入居者様が安全で安心してその人らしい生活が過ごせるよう各職種が協働して一丸となり、課題を早期発見・早期解決し、入居者と家族、そして地域社会に満足していただける施設を目指していく。

## 平成 26 年度 を 顧 み て

施設長 松本 裕一

入居者さまの尊厳を守り充実した生活が送れるよう、青葉の杜の理念である「温もりのある介護を実践し心豊かな生活を提供します」を念頭に職員一同、取り組んで参りました。

特養・ショートの取組みについては、入居者のニーズである外出の機会や食に対する期待に応えるようフロア毎の目標に掲げ、円庭の散歩が中心とはなっておりますが季節を感じる花や木々、そして外の空気に触れることでコミュニケーションも取れ、一定程度の外出の機会を確保することができたのではないかと考えております。また、食に対しては課題点があるものの新規イベントを実施させて頂きました。

デイサービスの取組みについては、通所便り「デイ通信」を作成しご家族や地域の方々（外の掲示板への掲示）へ、デイの活動を多くの方に知ってもらう機会、選ばれるデイに向け発信しております。

地域に向けての取組みについては、継続実施している子育て広場のスペース開放（14回実施）や介護体験教室の開催（4回実施）、そして地域イベントの参加や施設見学会と積極的に活動を展開して、施設を知っていただく機会となっております。

職員については、市内高齢者福祉施設との介護職員交換研修を実施し、他施設の仕事内容や取り組みを肌で感じてもらう良い機会となっております。また、必要に応じて職員面談を行い、コミュニケーションを取り、職場環境の改善に努めて参りました。まだまだ、コミュニケーションを増やす必要性を感じており今後についても実施して参ります。

適正な施設運営を図るため、稼働目標を特養・ショート合算で97.5%としており、最低限の目標達成しているところではあります。次年度の介護報酬改定や地域貢献活動等を踏まえると、高い意識を持ち稼働改善に向けて取り組み、施設運営の安定を図る必要性があると考えております。また、デイサービスセンターでは稼働目標を80%としており、81%の実績となっておりますが、特養同様、介護報酬改定により減収減益が推測されますので稼働率高位安定を目指し取り組んで参ります。一方、入居者の施設生活に目を向けてみると、昨年度に引き続き感染症が流行したこと、事故についても多くなっております。安心安全に生活を送っていただく為に、過去の事例確認や地域情報を収集し、気を引き締めて再発防止に向けて取り組んで参ります。

また、健全な施設運営には介護職員の定着はもちろんのこと、人材確保が急務であります。新年度は、豊島区施設のオープンすることもあり、今まで以上に求人訪問活動や訪問回数を増やし精力的に活動をして参りました。大学や専門学校、高等学校に27校と求人活動をしております。また、今年度は、面接会の参加だけでなく面接に繋げる法人主催の就職説明会を地域ごとに複数回、積極的に開催して参りました。例年よりは採用実績が上向いたものの目標とする数字とは程遠い状況となり、厳しいことには違いありませんが、来年度においても新しい企画を試みて参ります。

# さくら野杜

平成26年度を顧みて

施設長 石山 喜啓

さくら野杜の理念として『社会福祉の役割を果たし、ご入居者の尊厳を守り、共に楽しむ生活空間を演出します』を主題とし、具体的な7つのサービス方針を掲げていました。

小規模単位での生活空間を活かし、ご入居者・ご家族・ボランティア・職員で共に楽しい時間を過ごすことに努めた結果、各種活動数が増加し、より多くの笑顔と出会う事ができました。

余暇活動を多くすることにより、準備の不備や事故等が心配されましたが、おおきな問題も無く、生活の質が向上していることが実感でき、今後もまだまだ向上できる幅があると確信できた1年でした。

介護職員等の人材不足改善に向け、新規開設施設と合わせ取り組みを行い、理想的な人員配置になることができました。その分、前年度よりも人件費は上がりましたが、稼働も改善され、運営的に安定することができました。介護経験が少ない者や未経験者も採用している為、人材育成を確立し、介護サービスの低下にならないように努めています。

併せて、職員の定着を促す為、キャリアパスに基づいた人事考課を継続し、処遇改善加算手当を活用し、職員配置状況の維持に努めていきます。

開設当初より地域に密着した施設づくりを目指し、地域交流の充実を図り、地域の行事等に参加しています。小平市に協力を依頼し、施設職員が地域福祉に貢献できるよう『認知症サポーター研修』を施設内で企画し、ほぼ全職員が受講することができました。

入居率は平均98%を超え安定した収入を得ることができました。

ランニングコスト削減にも努め、消耗品関係、ガス、電気、水道の総合的な実効値を削減する事ができました。

平成27年度は、介護保険制度改正があり、介護報酬の減収が予想される為、稼働率の改善・コスト削減に努めていきます。

今後も社会情勢、地域状況、施設環境等の情報を集約し、その結果としての行動を臨機応変に対応する事により、安定した運営に努めていきます。

# せたがや給田乃杜

平成 26 年度を顧みて

施設長 米口 大作

せたがや給田乃杜では、介護老人福祉施設、短期入所生活介護事業、通所介護事業、居宅介護支援事業の 4 事業を運営しております。

当施設は、平成 26 年度も例年同様に、適正かつ健全な運営・経営を心がけ、「利用者様が笑顔で快適に過ごせる生活環境を提供するとともに、地域に根付いた施設を目指します。」という、せたがや給田乃杜の基本理念に基づき、特養入居者や在宅利用者に対し適正なサービス提供に努め、また施設名となっている「給田」という地に根付いた施設となるよう努めて参りました。

介護老人福祉施設では、入居者の「笑顔」、「安全な環境の提供」、「安心できる支援」という言葉をキーワードに掲げ、平成 26 年度の重点課題として取り組んで参りました。

例年通り、入居者の笑顔を引き出す取り組みを積極的に行い、入居者から多くの喜びの言葉を頂きました。

一方、「安全な環境の提供」「安心できる支援」に関しては、事故等の発生状況をデータ分析しその対処に努め、また職員の危機管理意識の強化を図りました。しかし、事故件数は若干減少したものの、平成 26 年度保険者に提出した事故報告は 17 件となりました。この結果を踏まえ、平成 27 年度は、リスクマネジメントの体制を再構築し、また職員育成に重点を置き、入居者へ「安全な環境の提供」と「安心できる支援」に取り組み、事故件数減少という結果を求めていきます。

また、入居者又はご家族の意向を踏まえ、看取り介護を実施し、年間 19 人の入居者を看取り、看取ったご家族より感謝の言葉を頂いております。

短期入所生活介護事業では、利用者のニーズを踏まえ、利用者との関わりを多く持ち、深く理解し、その上で適切な支援に努めるという基本方針のもと、利用者が求める、また喜ばれる支援に努めました。その結果、利用者、ご家族、関係機関の信頼を得ることができ、利用希望者も非常に増加している状況にあります。

通所介護事業では、平成 26 年度より、サービス提供時間を 7 時間 10 分に延長し、食事に関してはバイキング形式での提供を開始しました。また例年同様、サービスの質の向上と活動プログラムの充実を図ったことにより、利用者大変喜ばれ、評判も良く、その結果が利用稼働率に顕著に表れております。この状況を踏まえ、平成 27 年度には、利用定員を増加する予定です。

居宅介護支援事業では、担当ケアマネジャーに対する利用者やご家族からの信頼度が年々上がっており、今後もこの信頼を裏切らないよう努めて参ります。

当施設全体の取組みとして、地域に根付いた施設作りを基本理念としておりますが、上記の短期入所生活介護事業、通所介護事業等の在宅事業に対し良い評判が広がっている状況にあり、また地域住民を交えた行事を実施することで、当施設の事業運営に対する理解も深まり、地域に根付いた施設になりつつあると考えています。

また、前年度に引き続き、災害が発生した際、入居者等の安全性が少しでも高まるよう災害対策について検討してきました。避難訓練にも力を入れ、自衛消防訓練効果確認において世田谷消防署より表彰されました。

人材育成として、プリセプターシップ制を導入し、介護職員の育成に力を注ぎ、職員の質の向上に繋がっております。それが要因の一つとなり、離職する職員は少なく、職員定着に繋がったと思います。

平成 26 年度の利用状況について、介護老人福祉施設と短期入所生活介護事業を合わせた年間の平均稼働率は 99.05% であり、高い水準を保つことができました。また通所介護事業においては 90.26% ということで、事業開始以来はじめて平均稼働率が 90% を上回りました。居宅介護支援事業においては、契約者数が年間を通じて 40 名であり、安定した利用状況にありました。

上記のように平成 26 年度は全ての事業において高水準の利用状況にあり、今後もこのような実績を残せるよう鋭意努力をして参ります。

# せんだい郷六の杜

平成26年度を顧みて

施設長 中島 有二

平成24年7月に仙台市にせんだい郷六の杜が開設し、3年近くが経過いたしました。

せんだい郷六の杜は、介護老人福祉施設、短期入所生活介護事業の2事業を行い、せんだい郷六の杜の基本理念、「安心、安全を基にした満足感のある生活の提供を行います。」の基、入居者の尊厳を遵守し、「声」、「気づき」を大切に、より安心、安全な「ユニットケア」、「個別ケア」の充実を図り、入居者の楽しみ、笑顔が生まれる施設運営に心掛けてまいりました。

入居者の身体状況の把握、入居者お一人お一人の環境作りに努め、また、「気づき」、対応等により入居者とのコミュニケーションを図ってまいりましたが、転倒等の事故により、入居者の生活、身体環境を変えてしまう事故が多数発生してしまいました。事故発生リスク、事故予防の認識、意識対応の共有等により職員の事故に対する意識を高め、より一層の各入居者の状況把握を行い、事故未然防止等に努めて事故の削減を図ります。

ユニット活動、行事においては、施設内外にて食事会、施設内居酒屋、入居者が希望する野球観戦等、外出の機会を多くし、入居者が楽しめるユニット活動、入居者の笑顔が増えた一年でした。

看護課の早期発見、早期加療による健康管理にて重度化への防止、感染症の予防、看取り介護の実施を行い、26年度は入院月平均者約4名、退居者26名（内看取り15名）でした。

相談課、他課においても、入居者、ご家族への連絡、報告、相談等を密にし、入居者の快適な生活環境を提供するために信頼関係の構築に努めました。

職員に対しては、3月に「ユニット活動報告会」、また園内外の研修を通して施設職員としての認識、知識、技術の確認、外部講師によるサービス、技術、メンタルケア等の研修より、職員の意識、質の向上に努めました。

短期入所生活介護は、地域事業所から情報収集、地域ニーズの把握に努め、緊急利用者サービスにも迅速に対応しましたが、空床利用を効率良く活用できませんでした。

次年度は空床の有効活用を念頭に、地域事業所との連携を高め、「在宅生活の継続」に基づいた適切な介護サービスの実施に努めます。

地域との交流は、仙台市より福祉避難所の指定を受け、町内会との防災会議、合同防災訓練を実施し、また施設行事の郷六の杜祭り、敬老祝賀会、芋煮会、餅つき大会等に地域の方々のご参加をいただき、地域との交流を図りました。

26年度の利用状況は特養事業96.03%、短期事業103.15%、施設計97.05%でした。

退居、入院時の空床利用の活用不足、また平均介護度軽度化により収入の高位が図れませんでした。

次年度は各部署との緊密な連携、情報の共有の基、安定した施設運営、転倒事故等の削減に努め、安心、安全、健全な施設運営を図って参ります。

また施設における体制の整備、職場環境の改善に努め、入居者の尊厳を守り、「ユニットケア」、「個別ケア」を更に充実させ、笑顔で快適に生活いただけるよう、地域に密着した施設作りに努めて参ります。



# 杜の園ながおかデイサービスセンター

平成26年度を顧みて

管理者 新井 公二

杜の園ながおかデイサービスセンターも開設し丸6年が経過しました、26年度は契約者数の伸び悩みや職員の離職率の高い年ではありましたが、事業目標であるきめ細やかなサービスを心掛け、利用回数を増やして頂く利用者様が多かったり、お休みされる方が少なかった年と思われます。冬季においてはインフルエンザも流行することなく、かえって冬季の稼働が上がっている状況でした。

そのかいもあり稼働目標である91パーセントには届きませんでした、延べ利用者数年間6858人、年間稼働率88.77パーセントと比較的高い数字が残せたと思います。

来年度も更なる飛躍が出来るよう、職員一丸となりがんばっていきたいと思います。

## 【事業概要】

- ・利用者定員            — 25名
- ・営業日                — 月曜日～土曜日（日、年末年始はお休み）
- ・サービス提供時間   — 9:30～17:00(送迎時間8:30～9:45、16:50～18:30)

## 【平成26年度事業計画書におけるデイサービスの方針に沿った報告】

平成26年度事業計画書におけるデイサービスの方針に基づき、以下のような考えのもとサービス提供等に努めた。

- ・可能な限り自立した質の高い生活を送ることが出来るよう、心身機能の向上、維持がはかれるようなプログラムを心がけた。
- ・デイサービスを利用することで、ご家族の身体的・精神的負担の軽減を目的としたサービスを提供するよう心がけ専門的な立場から助言できるよう努めた。
- ・職員間の連携、情報の共有化に努めた。

## 【平成26年度事業計画書におけるデイサービスの実施概要に沿った報告】

平成26年度事業計画書におけるデイサービスの実施概要に沿って、以下のような取り組みに努めた。

### 1. 職員の資質向上

- (1)利用者様、ご家族に選ばれる質の高いサービスを提供する為に、職員育成に努め、個々のスキルアップに努めた。
- (2)職員間の連携を強化し、利用者様の対応や業務等をスムーズに行った。
- (3)施設内研修及び外部研修に参加し、職員の自己啓発を図り、サービスの質の向上に努めた。

### 2. 新規利用者の確保

- (1)新規利用者の確保・獲得の為に、地域の居宅介護支援事業所と随時連絡をとり、信頼関係を築いていき、新規の利用者様を紹介していただくよう努めた。
- (2)サービスの質を確保し現在いらっしゃる利用者様にたのしんでいただけるよう質の担保に努め介護支援専門員との信頼を獲得できるよう努めた。
- (3)施設内の新聞を作成し(毎月)視覚からセンターの様子がわかるよう工夫し、ご家族や居宅介護支援事業所へ配布し空き情報等も公開し、新規利用者様の獲得に努めた。  
上記の取組みを行い、年間 88.77%の稼働状況となった。

# 杜の園むらまなデイサービスセンター

平成 26 年度を顧みて

管理者 大江 聖司

平成 24 年 7 月に開設し、3 年近くが経過しようとしています。

3 年目を迎え、前年度に引き続き、ご利用者様、ご家族、地域の皆様、居宅介護支援事業など多くの方に認知、信頼され多くの皆様にご利用していただけるデイサービスを目標とし、職員の質を高め、サービスの質の向上、活動プログラムの充実が図れるよう取り組んでまいりました。

小規模デイサービスということで家庭的な雰囲気の中、安全で楽しく過ごしていただくことを第一とし、サービスの提供につとめてまいりました。

武蔵村山ボランティアセンターと連携を図り、市民活動ボランティアグループの方々の協力を得て、演芸(唄、演奏、オカリナ、紙芝居など)を披露していただきました。

活動の中で、手工芸、頭の運動、レクリエーション、行事などの活動プログラムを通じて、身体を動かし、他利用者様との交流により残存機能の維持、生活意欲の向上が図れるよう通所介護計画書を作成し、それに基づきサービスの提供に努めてまいりました。

利用状況については、ご利用者様に満足していただける施設づくりを行い、居宅介護支援事業所への訪問(園便り、パンフレットの配布、空き状況の報告)など信頼関係の構築を図るため毎月実施し、新規利用者様の確保に努めてまいりましたが

入院、ショートステイご利用、お亡くなりになられるなど、年間平均稼働率前年度を下回る 67.25%となりました。

単独した小規模デイサービスの課題のひとつでもあります。利用者様 1 人の休みによっても稼働率の大きな低下につながることで、定期的なショートステイのご利用、入院などにより、安定した稼働を保つことが難しい状況ではありますが、高位安定した稼働実績を残すためにも自法人居宅介護支援事業所はもちろん、市内事業所との連携を今まで以上にはかり、選ばれるデイサービスづくりをして参ります。

平成 27 年度介護報酬改定に伴い、報酬の引き下げなど運営はより厳しい状況となりますが今まで以上に適切な運営が行えることも目標に行っていきます。

平成 27 年 5 月より以前よりケアマネジャー、ご家族などより聞かれていました土曜日の営業を開始させていただくことでより多くのニーズに対応していくことで「選ばれるデイサービス」、「求められるデイサービス」としてご利用者様、地域の皆様、居宅介護支援事業所に信頼されるべく、施設づくりを目指し、職員の能力の向上、プログラムの充実などによりサービスの質の向上を図っていきます。

【社会福祉法人 七代会 組織図】

